

toVO トヴォ
PLUS

www.tovo2011.com

SEASON 8

No.084 - 100号まで、残り16家族、16ヶ月

ついに
SEASON 8
突入!



NO. 084

あなただけの100家族、わたしたちのこれから。

20190311



今号（85 家族目）のご家族 ▶

蛭沢 勝寿さん・睦美さん・舞ちゃん・優くん・彩ちゃん

撮影場所 ▶ TBT English School（東北町）

【インタビュー】

●2011年3月11日のことは覚えていますか？

▶勝寿さん「よく覚えています。その年の3月は東京での仕事を辞めて青森に帰る時期でした。ちょうど3月11日の夜は友達を送別会を開いてくれる予定だったんです。もちろん、キャンセルになりました。当時は

心臓ペースメーカーを扱う会社で営業をしていて、3月11日はペースメーカーを入れている患者さんの定期検診の為に、東京都内の某大学病院にいました。外来の部屋に向かう途中、階段を上っていた時に大きな揺れがきました。もうパニックでしたね。点滴中の患者さんが点滴スタンドを引きつりながら避難しているような状態で、スタッフも誘導はしているのですが混乱していました。僕も避難の手伝いをしながら、なんとか外に出て、会社に戻ろうと思って社用車のエンジンを点けたら、カーナビから大きな津波の映像が映し出されて、本当にびっくりしました。停電で信号機も止まっている中、普段であれば1時間で戻れる会社に4～5時間かけて戻りました。会社に着いたのは夜の8時頃。まだその時点では妻と連絡が取れていなくて、ちょうど妻は妊娠中で長女がお腹にいたこともあり心配でした。とにかく帰ろうと思い、家まで歩いて帰りました。僕は会社からある程度近いところに住んでいたのが良かったですが、4～50kmを徒歩で帰宅した同僚もいました。帰宅中、停電で薄暗い歩道をたくさんの人が歩いていて、すれ違う人がみんな『大丈夫か？』なんて声を掛け合っていて、お互いを気遣っていたのが印象的でした。」

▶睦美さん「その頃は、妊娠していたこともあって専業主婦でした。午後から散歩をしようと思って、ダウンジャケットを着た時に大きな揺れが起きました。隣の部屋の姉妹が『キャー！』と叫びながら逃げていったのを覚えています。私も逃げようと思って靴を履いたんですけど、外に出るべきか、部屋に残るべきか、どうするべきか分からなくて、かなり戸惑って、玄関を開けたり閉めたり、どうしよう...という感じでした。結局、揺れが収まって部屋に戻ったんですが、お腹に子どもがいたこともあり、かなり動揺しました。ただ、住んでいた地区は停電にならなかったんですね。そういうこともあり、だんだんと動揺は収まって普段通りの生活に戻りました。私の実家が岩手県花巻市なんです。内陸なのでニュースを見る限り、たぶん大丈夫だろうなとは思っていましたが、なかなか連絡が取れなくて心配しました。実家でも困ったことは多々あったようですが、なんとか無事でした。ただ、知人で犠牲になった方々がいて、そのショックはとても大きかったですね。」

●震災後、何か変わったことはありますか？

▶睦美さん「直後はいつでも逃げる準備をしていました。子どもが生まれてからはオムツを別に準

備したり。生き方に関しては『後悔をしたくない』という気持ちを持つようになりました。前に勤めていた会社の支店が仙台や陸前高田市などにあったのですが、その町の様子などを見て、一瞬でなんにも無くなってしまうものなんだなと深く感じ、『後悔をしたくない』と強く思うようになりました。東北町に英会話教室を開業したのも、失敗しても『後悔をしたくない』という気持ちがそうさせたと思います。」

▶勝寿さん「当時は大量の水を準備していましたし、防災リュックも備えていました。気持ち的には妻と同じで『後悔をしたくない』というのがあります。さっきもお話したのですが、東京から青森に帰ってくることになって、送別会を開いてくれるという予定が震災で全部キャンセルになって、結局、ちゃんと皆にお別れをしないまま青森に帰ってきたんです。一旦帰ってきちゃうと皆と会える機会というのはなかなか作れないし、ずっと心残りがあるんです。そういう心残りはもうしたくないなと思っていて、だから、会いたい人には会うとか、何に関してもボンヤリしてられないゾという気持ちにはなりました。」

●ご家族の10年後のイメージは？

▶勝寿さん「子どもたちが元気に勉強したり、スポーツしたりしてくれてたらと思います。それを支えるために夫婦で健康管理はしていきたいですね。震災前は遠い目標というのを立てていたのですが、震災後は近い目標、明日どうなるか分からないから、今日やれることを全力でやるという気持ちに変わったように思います。」

▶睦美さん「そう、同じ気持ちです。前は子どもを置いて海外に行くなんて考えられなかったですけど、今できることは全力でやりたいですね。何ごともないっていう小さな幸せを大事にしたいです。」

▶優くん「リレーを走りたい。」

▶舞ちゃん「ピアノの先生になりたい。」

【取材後記】蛸沢さんとは、東日本大震災がなければ出会うことはなかったんじゃないかと思います。初めて直接お会いしたのは、東日本大震災後、ブラフマンのライブ会場でした。以降、蛸沢さんが関わるイベントに継続的に出店させて頂いたりして、南部地域の方々に広げて頂きました。その当時は別のお仕事をされていましたが、現在はご夫婦で英会話教室を開業し、順調に活動の幅を広げていらっしゃいます。東日本大震災をきっかけに出会い、今では案外長い付き合いとなりましたが、今回初めて、僕と出会う前の「蛸沢さんご家族の東日本大震災」のお話を伺いました。それはしっかりと現在のご家族の行動や考え方にリンクしていました。（今回忙しすぎて、撮影をプロカメラマンの須川さんに頼みました。さすがです。感謝！）

(今号No.084のインタビュー：小山田和正 撮影：須川健太郎)

【寄付総額】2011年6月～2019年2月22日まで「¥7,339,466」を、あしなが育英会「あしなが東日本大震災遺児支援募金」へ寄付することができました。ご支援に深く感謝致します。

【定期購読のご協力を!】1年間の定期購読を承ります。**1,800円**(送料・寄付含)／1年間(12号)です。このフリーペーパーは定期購読の皆様のご支援で発行されております。ご支援の程、宜しくお願い致します。ご希望の方は、ウェブショップ (<http://shop.tovo2011.com>) よりお申し込みください。